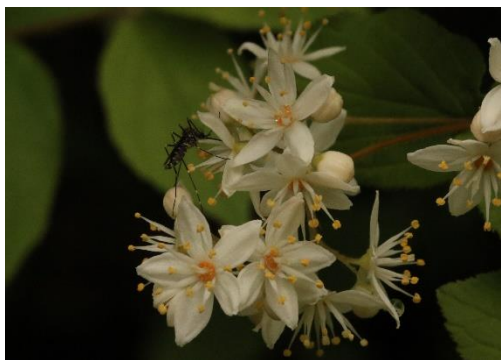




愛川ふれあいの村 今月の風景

2024年5月 自然のたより

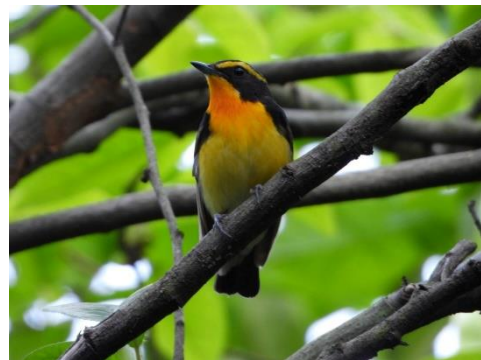
村は新緑のあわい緑の季節から、あっという間に鮮やかな緑の季節に移り変わります。山道を歩けば5月の風に乗った、木々たちの花の香りが体を包み、何とも言えない心地よさを感じます。谷の方からはウグイスの声が響き、夏鳥のキビタキがきれいな囀りを聞かせてくれます。巣立ちをした若鳥の親鳥に餌をねだる甘えた声が聞こえるのも、もうすぐです。巣の中で卵からヒナになり、そして巣立ちを無事できるのは半分にも満たないと言われます。自然界の厳しさを感じる5月でもあります。(高梨)



ウツギの花



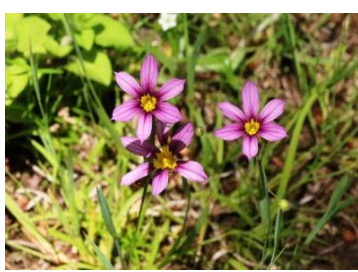
トチノキ (小学3年生の国語教材)



夏鳥のキビタキ



満開のカルミア



ニワゼキショウ



雨の日のフルノコゴケ



オカタツナミソウ



キチョウ



ギンメッキゴミグモ上向き



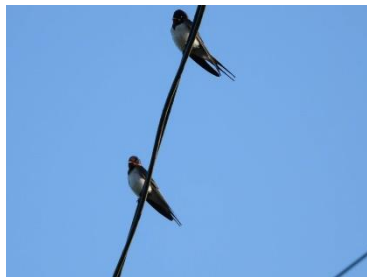
エゴシギゾウムシ



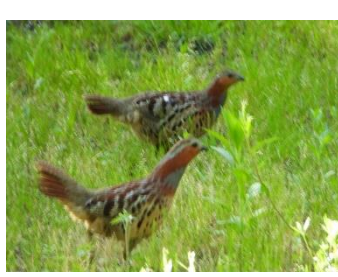
エゴツルクビオトシブミ



カメムシ注意報発令中



飛来したツバメ



コジュケイ



飛翔するヒヨドリ

トピックス★ 甘い香りにひかれて ★

春になり、村内は新緑の緑、花々のピンクや黄と彩り豊かに染まっています。もちろん目立つ花々もキレイですが、村内には可憐な白い花も多く咲き始めています。

「ミズキ」の花もその一つ。約20mまで成長する大木に白く細かな花がたくさん並びます。葉っぱの上に顔を出すその姿は、まるでテーブルの上に並べられた料理のよう。巷で「テーブル・ツリー」と呼ばれるこの光景が、秋になり実が熟すと、鳥たちの憩いのレストランへと変化していきます。

冬の間も葉が枯れず寒さに耐えた「スイカズラ」も花が咲き始めています。ツルの間から見せる2連の花の色は、咲き始めは白く、次第に黄色へと変化をみせることから、「金銀花（キンギンカ）」と呼ばれています。咲き始めた時期によりグラデーションが楽しめるこの花からも甘い香りが漂ってきます。

春は、花の季節。甘い香りや爽やかな香りに惹かれ、たくさんの生き物に出会えることがたのしみです。（佐々木）



生き物 ★ ヒキガエル ★

4月に入ると村の中心にある池に沢山のオタマジャクシが現れます。1匹の親が約1500から、多いと14000もの卵を産むそうです。ガマガエルやイボガエルとも呼ばれることのあるヒキガエル。親は10cm近くにもなる大きなカエルですが、手足が生えたばかりの時は1cmほど、小指の爪ほどの大きさしかありません。5月の雨の日などには森に向かってぴょこぴょこ移動する姿を見ることができます。そこから大人になれるのは1%にも満たないと言われていて、とても厳しい世界ではありますが、このかわいらしい子たちが、遅くなって帰ってくるのを楽しみに待ちたいと思います。（川原）



旬 ★ イチゴ ★

イチゴの旬は、冬から春と思われる方が多いと思いますが、本来は4月～6月の『春だけ』でした。日本ではビニール栽培が行われ、季節を勘違いさせて冬～春に収穫できるようにしたそうです。

5月頃から見ることが出来る『ノイチゴ』は、ちょうど今が見頃です。ノイチゴの中でも食べられる「モミジイチゴ」や「シロバナノヘビイチゴ」と食べられない「ヘビイチゴ」などがあります。見た目も形も似ていて、種類も豊富なので必ず図鑑で調べましょう。（大瀧）



来月の見どころ
梅雨を楽しむ生き物
今ある緑をどのようにして守っていくか、これは私たち人間に課せられた非常に大きな問題です。6月は環境月間です。地球を取り巻く環境問題が、年々厳しくなっています。地球温暖化は、年々進み世界の共通課題となり色々な試みが施行されています。地球温暖化による海面水位の上昇は著しいものがあります。人間の欲望とエゴイズムで各国が無駄な競争に費やすエネルギーこそ今見直さなければならぬ課題だと言えます。それは人間だけでなく生物多様性にも大きく影響しています。ふれあいの村で森の空気と共に流れるようなサンコウチョウの声に歩き疲れた身体が元気になりました。池ではたくさんの小さなカエルたちが上陸をしました。親になるのは数匹と言われていますが、また池に戻ってほしいなと思っています。人間も鳥もカエルもみんな同じ地球の仲間、争いやめ助け合い分け合って生きていきたいものです。（吉田）